

# 関西大学博物館実習展（講評）

日時 2011年11月13日(日)～11月18日(金) 10時～16時

場所 関西大学博物館第2展示室（簡文館内）

## 扇 ～実用と美の世界～

- 展示ケースの関係で、順路がやや良くないのが残念であった。扇の展示にもう一工夫が必要。両面が見られるようにした方がよいものがあった。
- 展示資料の点数は適切で、解説も見やすい。図録の編集も良好で、全体にまとまりがよい。
- 全体的によくまとまっている。とくに図録がいい。
- イントロのあいさつ。あいさつの文字。主題を太くはっきりと。扉の背景となるものの補助展示がほしかった。鳥展示の部分の壁面の使い方がなかった。ポスター：扇の何を表現しているのか？
- キャプション、解説、手を抜きすぎ。
- 展示道具が展示ケースに置き忘れられている。出陳品目録がない。ポスター（パネル）にデータが不足している。
- 実物展示なので迫力がある。解説も丁寧で、図録も美術展示の基本書となり得ている。とても感心しました。ポスターのデザインは良くできているが、現物が出品されていないことが残念。
- 内容が濃い。多彩、多種なものにふれているが、つまんだ部分もほしかった。
- 図録はバツゲンですが、一人でやっている感じ。他の人に聞いても説明できない。一押しの作品をもっと手前に出しては。ポスターの作品は一押しのものではないのでは？図録に比べて展示は物足りない。
- 図録ではよく調査されている内容が展示に反映されていない。「あいさつ」の文字が小さい。
- 図録・展示は実習展中、最もまとまっている。ただ、絵画作品ゆえの照度の調整が必要であろう。舞扇など使用している場面や芸能の観点からの追求も必要。
- 扇の用途の多様性をもっと説明すべき。解説が少し難。字が小。
- LEDライトを使用しているとはいえ照明が明るすぎる。展示構成は良い。項目解説文字の大きさに大小。統一を。

## 華やかな三味線文化 ～町人が奏でる音色～

- 実物とその作り方は良くわかる。音を聞かせるのが良かったが、展示場に音楽が流せないのが仕方ないか。しかし、まとまった展示です。
- ポスターがやや弱いですが、展示はまとまりがある。解説などを調整すれば、より展示らしくなる。
- 展示について、前半はうまくまとめているが、後半ののぞきケースでも足が止まるような工夫がほしい。

- 鳥展示の壁面の使い方がない。当道・ゴゼの違いの説明は？三線、三味線はOK。白い資料一写真のバックに気をつけること。ポスター（パネル）一日時他、基礎的な情報がない。
- キャプション、パネル統一感はある。
- 展示札の置き方に工夫が必要。皮の実物見本は展示しない方がよい。ポスター（パネル）にデータ（日付け）がない。図録の表紙一縦組み、本文は横組み。
- 「音」をテーマにしているので難しい部分もあったと思うが工夫がなされている。図録の図版に、出品と参考図版の区別をわかりやすくする工夫がほしい。
- 平均的に三味線について総合的に説明した感じがする。印象に残りにくい。
- ポスターデザインと展示のところのパネルのデザインが違うのはなぜ？触れる品目があるのにわかりにくい（犬皮も録音も）。
- グラデーションのついた解説文は文字量・内容ともに適切である。展示品の題箋はタイトルのフォントサイズが大きすぎると、余白が少ないのが残念。
- コンセプトが弱い。ビジュアルなのか、歴史変遷なのか？犬猫皮の需要と近年の海外市場の話など資料バランス（明治・大正の芸能雑誌もつとある）。
- 楽器なのでやはり音を知らせてほしい。
- 展示構成は良い。項目解説文字の大きさは良い。

#### 和傘 ～日本人の心～

- 傘の歴史にもう少し力を入れても良かった。広げた傘が展示できたら良かった。
- 図録の編集はよくできている。まとまりがあった。展示については、VTRを採用しているが、スタイルの工程表の方が適切かもしれない。
- ポスターのデザインが優れている。また図録もよくできている。
- 傘の現状をもう少し突っ込んでほしい。今の傘との比較を？せっかく勉強しているのに展示に反映させてない。もったいない。傘の歴史、また傘と笠・蓑他の道具との比較へ広げる余地があった。図録は内容が良い。もう少し単純化してわかり易くしても良い。
- もう少し広げた傘に立体感があれば（アイキャッチに）。分担はよくとれている。図録はもう少しメリハリを。
- 解説札の位置に問題がある。すっきりした展示になっている。図録をたくさん用意するのは、大変なことである。よし。
- キャプションに解説が少なすぎてわかりにくい。展示の構成や学生の説明はきちんとしているのに残念。第4章は始めにもってきた方が良いのでは。
- 平均的。普通のカサ（洋傘）との違いから説明してもらおうと素人には分かりやすいかも。
- 最初のケースが資料で、お客さんが入りにくいのでは。奥の大傘の迫力を前面に出した方がよかったと思う。その横の2つの傘は露出展示だが、接触しそうで不安。
- 図録に記述されている解説が展示の方にも、もう少しほしかった。逆に和傘の各部の名称の図は図録にも収めるべきである。
- 年表、順路が逆である。和傘と「下駄」＝異物感あり。構造説明は面白い。展示工夫（裏から見る）が必要（せっかくの骨の造り、風合い）。

- 現代生活と傘へのつながりがもう一つよくわからない。洋傘の普及ももっと入れるべき。
- 展示構成は良い。項目解説は必要。照明は良い。文字の大きさに大小あり、統一を。

### オール「無」電化—電気のないあのからし

- 光と暖と食べ物など種々あり、しばらくにくかったと思う。年表がわかり難いです。
- 典型的な民具の展示としては代表的な展示。やや資料が多いことやや平板な展示におもしろ味がないように思う。あらためて、民具の展示はむずかしい。
- タイムリーなテーマであるが、展示の目的が不鮮明。茶釜と七輪の組み合わせは不自然。
- 電化の歴史と新旧の生活の比較を。家庭製品に重点をおいた説明が多い。図録の影絵による表現、Good。時代は江戸時代—明治・大正・昭和か？ポスター……電気がない場合の生活。インパクトが強いのは何か？
- アイデアが多い。メンバー参加感がある。図録、影絵がいい。
- 展示品ネーム、解説札の置き方に工夫する必要がある。出陳品に目録がない。表紙たて、本文横組み。
- 「今」を捉えた視点は良。60年前の献立のキャプションの字が小さく、位置も低い。見やすくする工夫を。
- モノの展示でなく「でんき」を使わない工夫が見えると面白い。か。（動態展示は難しいです。）
- 電化前の道具を並べているが、その中でも時代の幅があるはずなのに、展示からはいつの道具なのかかわりにくい。ポスター、道具に字がかぶっているのが残念。
- ケースの中は昭和レトロの品が並べられている感じで平板な印象。ケースの外に再現されたちゃぶ台もよく見る展示ではある。もうひとひねりほしかった。
- オープン展示の良さが活かしきれていない。オール無電化の意義と良さが出ていない。対象を絞り込むこと。
- 電気がないから何を学ぶのか、もっと主張してもいいのでは。
- 天井からのベース照明がなく、LEDで資料に光をあてているため、文字が暗くなっている。項目解説あり。文字の大きさに統一必要。

### 地域のヒーロー ゆるキャラ<sup>®</sup>！

- 見学する人は多いと思うが、訴えるものが少ない。
- 展示テーマが難しいので、博物館展示としてまとめるのが困難である。ただ、「ゆるキャラ」を再考する時期にきている点に、展示意図があるようである。
- 単なる紹介に終わっているのは残念。ただし、見る人の心を軽くしてくれる企画は評価。
- 何を表現しているかの説明。元になったもの、キャラの説明を前面に出しても良いのでは？ どういう効果があったのか、期待していたのか？
- 利用者の設定をしてみる。展示、群展示はできている。すいたんとモッピーが残念。図録は文字の大きさにメリハリを。クイズパネルがきたない。
- 出陳品目録がない。解説文の不足。
- 「ゆるキャラ」という、皆が興味を持ちそうなものを選んだ着眼点は良いが、「キャラ」の説

明が全くないので、わかりにくい。並べただけに見えてしまうのが残念。吹田市との連携（着ぐるみ）はみごと。

- 「キャラクター」の歴史や「ゆるい」というコトバに注目すると掘がったのでは。
- 7点紹介されているが、なぜこの7点なのか、その何点かで、ゆるキャラがすべてわかるのかは疑問。キャプションが見えにくい。
- グッズや人形の展示に終始し、ゆるキャラの目的や使命といったものがあまり伝わってこない。図録の内容が反映されていないといえる。
- 順路が示されている。全体把握とれていない。資料がぶつ切り状態である。最も今日的な展示対象であるが、ただ並んでいるだけの感がいぬめない。地域なのか物なのか？成立過程。
- ゆるキャラの生まれた背景の解説が必要。各地の歴史・産物をふまえて。
- 展示構成のメリハリが弱い。文字の大きさは良い。展示資料に対しての照明は良い。

### すごろく今昔 ～紙上の“旅”～

- 江戸時代のものにかたよりすぎ。展示の説明が少ないので品の見所などを解説してあげないとわかり難い。
- ポスターはやや弱い。展示資料そのものへの解説がとぼしい。もっと資料へのアプローチ、掘り下げが必要か。
- 各時代のすごろくに描かれた図柄からもっとしっかり背景を追ってほしかった。
- 一つ一つの資料が細かくてゴチャゴチャした描き込みなので、何かをとり出してわかりやすくする工夫を。今との比較を。いろいろなタイプを整理してみてもどうか？旅の疑似体験……生活や時代と密着したもの……もっとふくらませてはどうか。いろいろなテーマのものを比較紹介するとよい。解説文はわかりやすいが、標本資料がやや単調。ポスター—双六の面白さが表現しきれていない。
- おおあじ。群化が必要。サイコロなどしかけがあった方が。動きがほしい。
- 解説が不足。展示法としてメリハリがほしい。表紙たて、本文横組み。
- 江戸時代の原物(古いものは珍しい。)を展示しているので、実物のもつ迫力はある。ただ、「飛び双六」の遊び方など具体的な説明がほしい
- パネルの継ぎ目が気になる。「旅」との関係が薄いか……。 「今」の双六も展示が分かりにくい。
- ポスターはもうひとつ。双六の説明は図録では詳しいが、展示の方ではわかりにくい。図録の文字はもう少し大きくしてほしい。
- 紙ものがただならべられているだけという感じでインパクトが弱いのが残念。
- 順路あり。展示が雑駁（ゲームとの境目）。変遷などの表示がもっと必要。台紙の処理。記号が出たまま。借用してとにかくおいたまま。旅の設定資料がない。
- 江戸時代の旅を全体的にとらえるべき。
- 照明は良い。項目解説あり。文字の大きさは良い。

## 総 評

### ○ 1. 印刷物について

- (1) グラフィックについては、現代の学生なので全体に大きな失敗はない。
- (2) 印刷物の原規、例えば、1 ページ目の始まりなどの原則が理解されていない。
- (3) 印刷物全体の設計への意識は十分あり、全体に見やすいものであった。

### 2. 展示について

- (1) 無理のないテーマを選んだ班は、スタンダードな展示となっており、手直しをすれば問題がない展示であると思う。
  - (2) 「ゆるキャラ」展は議論の分かれるところであり、今後この種の展示計画があった時には要検討。
- 各班に共通するが、もっと明確なストーリーがあってもいいのでは。テーマはそれぞれ興味深いのだが。
  - 全体的に絞り込み不足。コンセプトの弱さ。
  - 全体に言えることとして、図録の内容を展示に反映させればもっと展示内容が良くなったと思う。